審査会レポート

審查委員長 小林博人先生

日は長時間、ありがとうございました。

長い時間、皆さん本当にありがとうございました。本来であればこの会場に大勢来ていただいて、私たちと同じように様々なアイディアの体験をしていただけたらと思っていましたが、残念なことに今回は規模を縮小しての開催となりました。しかし、今日議論されたことは、ひとつは災害時にどのように人が生活するのかと言うことを改めて考えさせられる機会になりましたし、それをうまく機能させるために、日常で何を考えなければならないかということを改めて考える機会が得られました。改めてスポンサーの皆様に御礼を申し上げます。災害が起きてすぐの頃は人々の意識が非常に高くなりますが、日常生活に追われる中では忘れがちになりますから、それをこのような機会にもう一度思い出して次に繋いでいくことはとても重要です。審査を終えて、自分が一次審査の時に思っていたのとはまた違う発想で票を入れた自分もいますし、また皆さんのお考えを聞いてなるほどと思ったこともあります。そうして色々な人が色々なアイディアを話し合い、本日の結果となりました。自信をもって最優秀賞、優秀賞、その他の賞を決定することができたと思います。本

岡野谷純先生

本日は、ありがとうございました。私は一般部門の作品についてはなるべくトランスフォームしているものを選んでいましたが、本日審査員の皆様のお話しを聞いていると、「これはトランスフォームしていなくてもアイディアとして有用だ」、「奇抜で面白い」といったことを含めてお伺いして、私自身、審査というものについて学ばせていただきました。日本木青連の皆さんが実物製作した作品が各地域の方々にご覧いただけるのを楽しみにしています。

石川永子先生

本日はどうもありがとうございました。第2回となる今年度は、小さな模型を作ってその写真がちりばめられたアイディアシートがあり、アイディアのレベルが向上したのではないかと思います。 また、避難生活を扱う作品も大事ですが、人が亡くならないようにするためにはどうすべきか、というところ

に向き合った作品もいくつかあり、そういった視点の大事さも感じ取れました。

古久保英嗣先生

今回も数多くの作品を拝見し、深く考えていただいている作品も多数あり、楽しく審査をさせていただきました。こういった発想、アイディアをぜひ日本木青連の皆さんがヒントにしていただければ嬉しいと思います。

渡會清治先生

本日はどうもありがとうございました。とても面白い応募作品を多数頂いて、一次審査では迷いながら拝見しました。見るたびに自分の評価が変わるところも含めて、応募の内容の多様さが非常に面白いと思いました。今回、新型コロナウイルス感染症の影響であまり大勢の方に声を掛けられなかったのだと思いますが、会場をこちらの3×3 Lab Futureに移して開催されたということで、外部の方も審査会の様子を気軽に見に来られるようにすると、この活動がもっとオープンに発信できると思います。社会的意義のある活動だと思いますので、ぜひそういったことも今後期待したいと思います。

坂茂先生

先ほど試作品をどこに置くかというお話がありましたが、ぜひこの3×3 Lab Futureに展示できたらいいですね。応募作品のアイディアシートも壁に貼るなど、一般の方々にこの効果をぜひともご覧いただきたいなと思います。応募者や審査員も皆さん一生懸命やっていて、作品も面白いものが数多くありますので、そういう機会をぜひ増やしていただきたいなと思います。

大木聖子先生

今回、審査をしていてとても驚いたのは、熊本地震の時に被災者が実際に困った話を聞いてこの作品を考えました、というものもあったことです。特にジュニアの方がそうですが、東日本大震災ですら昔のことのようになってしまっているのだなと驚きました。普段、自分が東日本大震災はついこの間のこと、誰でもよく知っていることのように思ってしまっていることも感じました。

日本各地で非常に多く災害が起こっている中で、ひとつひとつの教訓をどう伝えていくのか、そういったことも改めて考えさせられました。どうもありがとうございました。

日本木青連令和元年度会長 亀山武弘氏

本日はどうもありがとうございました。第2回目となるこのウッドトランスフォームシステムコンペティション、審査員の皆様からご意見を頂いたように、どのようにして社会に発信していくかということが大事だと思います。発信方法を工夫し、毎年毎年ひとつずつ成長して参りますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

日本木青連令和元年度副会長 柴田君也氏

本日はどうもありがとうございました。私は普段、木材業界の人々とお話しする場合が多いのですが、今回の審査会で、皆さんの社会的に広い視点での物の見方を感じることができました。このウッドトランスフォームシステムというものも、物としての便利さを私は直感しましたが、先生方のお話しを伺っていると、人と人の心のケアに関する内容も多かったのが印象深いです。そのような木の持つ魅力というものを、我々自身がもっと関心を持ち、PRしていかなければならないなと感じました。ありがとうございました。



審查委員長 小林博人先生













坂茂先生 大木聖子先生





日本木青連令和元年度会長 亀山武弘氏

日本木青連令和元年度副会長 柴田君也氏



審査会後 記念撮影